

白桃

池松 孝子

1899年（明治32年）、品種改良により岡山県で水蜜桃の一種、白桃が誕生した。完熟しても桃の皮が白い。手で皮を剥くことができる。果肉は白く甘みが強い。これらが白桃の特徴だ。

今では品種改良も進み、甘くて香りもさらによくなっている。白桃の白さと柔らかさの秘訣は袋掛けにある。桃は袋掛けをしない「無袋栽培」も多いが、白桃は一つ一つ袋をかけて育てる。少しでも直射日光を浴びると味、色合いに影響が出るからだ。この大変な手間をかけることで、果皮の薄い白い上品な雰囲気白桃になる。山梨県、福島県、長野県でも生産される。岡山では原産地としてブランド化しようと、光センサーで糖度をチェックし、全品等級表示で正真正銘の最高品種白桃と謳っている。

かつて岡山駅の長距離列車のホームやコンコースでは数人の「桃娘」が「水蜜桃、水蜜桃はいかがですか」と若いよく通る声で桃を売り歩いていた。夏の風物詩として懐かしい。肩からベルトをかけ、駅弁売りのような箱に桃を並べて長距離列車が着くたびに窓を開け、手を出した乗客に販売していく。真夏の暑さの中、大変な重労働だろうと遠くから眺めたものだ。桃をイメージした淡い色のワンピースで笑顔の「桃娘」だった。初期には、岡山名産のマスカットを販売する「マスカット娘」もいた。今で言うなら「キャンペーンガール」そのものだ。

その後、長距離列車が窓の開かない新幹線にとって代わったこと、経費削減のためなどあつて1996年頃に一旦、終了となった。しかし2011年、九州新幹線鹿児島ルート全線開業により、新大阪から、さらに九州方面からの観光客も増えたため、15年の空白期間の後に再開された。

今年はどうかというと、土、日、祝日に新幹線のホームで販売していて、男性販売員「桃太郎」が加わったとニュースで見た。「桃娘」3人「桃太郎」2人で、以前よりかなり縮小しているようだ。